

喫煙する家族と暮らす非喫煙女性で脳卒中リスクが増加~日本の研究から

日本の大規模前向きコホート研究のデータを用い、成人期における受動喫煙暴露と脳卒中およびそのサブタイプとの関連を検討した。

1983年から1985年に登録された非喫煙日本人女性36,021人を15年間追跡した。その結果、906例の脳卒中死亡が認められた。家族に喫煙者のいる非喫煙女性の脳卒中死亡のハザード比は、家族に喫煙者のいない非喫煙女性と比べて、全ての被験者で1.14、40~79歳では1.24、80歳以上では0.89であった。くも膜下出血で最もリスクが顕著であった（ハザード比：1.66）。

したがって、成人期における家庭内受動喫煙暴露が、非喫煙女性の脳卒中リスクの増加に関連していることが示唆された。

出典：Preventive Medicine. Published online Jun 28, 2014;

pii: S0091-7435(14)00230-8